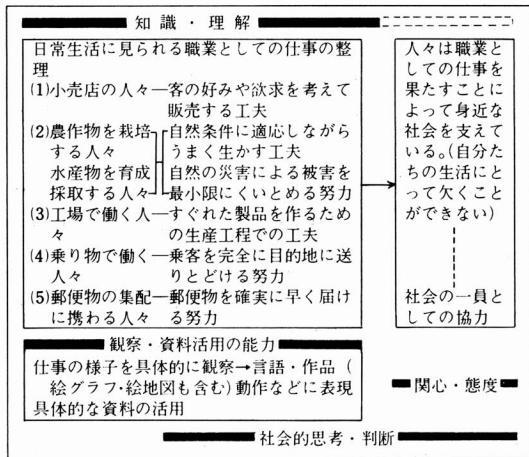


(図2) 社会科における「観点別到達目標」設定の手順

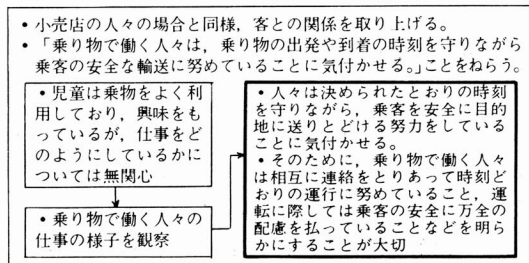
① 第2学年の学年目標・内容についての指導書の読み取り例



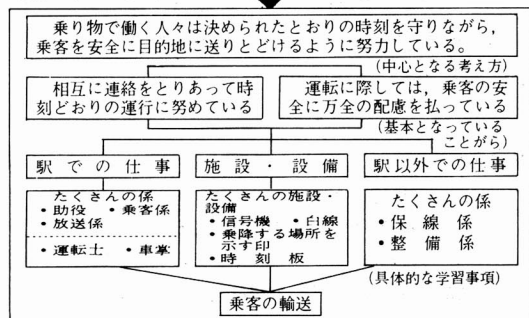
② 指導要録付属資料「観点別学習状況評価のための参考資料」2年

観 点	達 成 目 標
知識・理解	・物売ったり作ったりする仕事に携わっている人々の働きや工夫などが分かる。 ・交通や通信の仕事に携わっている人々の働きや工夫などが分かる。
観察・資料活用能力	・職業としての仕事の様子を具体的に観察し、見たことを言葉、作品、動作などに表現できる。
社会的思考判断	・職業としての仕事の意味を自分たちの生活とのかかわりにおいて考えたり、判断したりすることができる。
関心・態度	・日常生活において、職業としての仕事に携わっている人々の仕事の様子に関心をもっている。

④ 内容(4)についての指導書の読みとり例



⑤ 単元「駅ではたらく人々」の教材のしくみ



③ 第2学年の「観点別到達目標」例

観 点	達 成 目 標 例
知識・理解	(5) 乗り物で働く人々は、乗り物の出発や到着の時刻を守りながら乗客の安全な輸送に努力していることが分かる。
観察・資料活用能力	観察 表 観察して気付いたり、考えたことを絵、絵グラフ、短文、会話、動作に表せる。 表現 地 学校を中心とした身近な地域で観察できる商店、田畑、工場、駅、郵便局などの位置を絵地図に記入できる。 資料 地図
社会的思考判断	(1) 職業としての仕事の意味を、自分たちの生活とのかかわりで説明できる。 (2) 職業としての仕事に携わる人々の努力や工夫を、それぞれの仕事の意味と関連させて説明できる。
社会的事象に対する関心・態度	(2) 学校や家庭ばかりでなく、世の中でも多くの人々がそれぞれの仕事を分担しあって努力していることに関心をもち、調べようとする。

(※例を掲載、数字は目標番号を表すが⑥とは対応していない)

⑥ 単元「駅ではたらく人々」の「観点別到達目標」例

観 点	達 成 目 標 例
知識・理解	(1) 乗り物利用の経験から、どんな時に乗り物を利用するか言える。 (2) 駅で働く次の人々の仕事の内容を言える。 2-1 助役 2-2 乗客係 2-3 放送係 2-4 運転士 2-5 車掌 (3) 駅以外で働く次の人々の仕事の内容を言える。 3-1 保線係 3-2 整備係 (4) 駅にある次の施設・設備のはたらきを言える。 4-1 信号機 4-2 白線 4-3 乗降場所を示す印 4-4 時刻板 (5) 駅で働く人々の動きを調べて、乗客の安全と時刻表のように正確に発車させる工夫が、協力的に組織的に行われていることを言える。
観察	(1) 駅を見学して次のことを指摘できる。 1-1 駅で働く人々 1-2 駅にある施設 (2) 駅を見学して次の現象を指摘できる。 2-1 乗客は白線やベルの合図を守って乗っている。 2-2 駅員はアナウンスや助役の指示で動いている。
観察・資料活用能力	表現 (1) 駅を見学して気付いたことをメモできる。 (2) 駅を見学して気付いたことを発表できる。 (3) 電車がプラットフォームに入ってから出て行くまでの人々の動きや役割をグループで演じあうことができる。 (4) 家族の1週間の乗り物調べを絵グラフに表せる。
資料	写真から保線係、整備係の仕事の内容を指摘できる。
地図	学校を中心とした絵地図に駅の位置を表せる。
社会的思考判断	(1) 乗り物で要求される第1条件は安全性であることを説明できる。 (2) 駅で働く人々の努力によって、人々が安心して通勤・通学できることを説明できる。 (3) 駅や駅以外で働く人々の努力や工夫、施設・設備のはたらきを「正確」の面と「安全」の面から関連づけて説明できる。
社会的事象に対する関心・態度	(1) 駅で働く人々の見学を注意深く行える。 (2) 表現活動を楽しみ、協力して行える。 (3) バスやタクシーや船で働く人々も、安全輸送のために工夫や努力を続けているかを、調べようとする。 (4) 列車を利用するとき、どんなことに注意しなければならないかを分る。